



発行元：民主党プレス民主編集部

東京都千代田区永田町 1-11-1

TEL：03-3595-9988（代表）

連絡先：民主党静岡県参議院選挙区第3総支部

静岡市駿河区南町 10-6 村上駅南ビル 703

TEL：054-280-7604 FAX：054-285-7993

号外



参議院議員

藤本祐司

2009年5月号

## なぜ、解散するのか。

昨年9月の福田首相の突然の辞任以降、「衆議院はいつ解散するの？」と幾度となく質問された。

ところで、衆議院は任期途中で解散することが当たり前のように言われているのは何故だろうか。確かに日本国憲法が施行されて以来、1976年の三木内閣を除き、時の首相は衆議院を解散してきた。事実だけをとらえると解散することが規定路線と考えるのも無理はない。しかし、衆議院には4年の任期がある。任期が定められているのに、何故解散することが当たり前になっているのだろうか。

衆議院は参議院よりも力が強い。予算は、参議院で否決されても衆議院で可決していれば成立する。他の法案も参議院で否決されても、両院協議会を経たうえで衆議院で再議決できる。参議院には再議決権はない。それだけ衆議院は権力を持っているのだ。

つまり、衆議院が強い力を握っているからこそ、刻々と変わる民意を聞く必要性も高くなる。すなわち、**民意を問うために解散がある**のだ。民意を反映しない政党が政権を握っているのは国民は不幸だ。それ故、衆議院には解散をする仕組みが取り入れられているのだ。しかし、現在の衆議院の勢力構造は、小泉内閣の時のままである。その後、安倍、福田、麻生と首相の座が引き継がれ、内閣支持率が高い時には8割近くまで上がった。解散が定められている理由を忠実に考えると、民意を問い直さなければいけなかったはずだ。

しかし、与党は解散の本来の存在理由はそっこのけで、自分たちに有利な時期に解散しようとし、未だに解散しない。与党に有利な時に解散することは

一見戦略上正しいようだが、本来の解散の意味を考えると間違っている。まさに、**国民の立場で政治を行っていない証拠**である。民意を問うための解散ではなく、与党に有利か否かで解散をする屁理屈がまかり通っている。民意を無視するなら、いっそ衆議院も解散できないようにしてしまった方が良いのではないだろうか。その上で、任期を3年に短くしてしまい、民意を問う時期の頻度を強制的に上げてしまった方が良いのではないかと考える。

新聞やテレビなどのマスメディアは、議員立法を提出しても、あるいは熱心に委員会で法案を審議しても、結局は解散に結びつけて報道する。5月の大型連休の前後も、補正予算以外にも、消費者庁や消費者委員会の法案を審査する『消費者問題特別委員会』が連日開催されているが、報道される紙面や時間は限られている。国民年金の改正法案が提出されていることすら知らない方々も多いのではないだろうか。政治家が、政策や法案審査に一所懸命に取り組んでいても、政局、特に解散にばかり目がいくようになってしまっている。これでは、本来の政（まつりごと）に集中できない。国民の多くはマスメディアを通して情報を得て、考える。マスメディアの役割は重い。

**今こそ政治家もマスメディアも物事の本質を見つめ直す時なのかもしれない。**この際、**原点に立ち戻り、任期を設定する意味、衆議院の解散の意味などを改めて問い直し、国民目線で解散を考え直すことが必要**ではないだろうか。

## “新企画” ～藤本ゆうじの自分史～

2004（平成16）年7月12日、未明（0時10分ごろ）、私の当選がやっと現実になった。全国の選挙区で最後の当選者だった。投票日のうちに当確が出なかった唯一の選挙区の参議院議員として、ほんの一瞬だけだが全国に藤本ゆうじの名を轟かせることができた（かもしれない?!）。民主党2名、自民党2名、共産党1名の激戦だった。あれから4年10か月。長いような短いような4年10か月であった。4年10か月と言っても、私の人生の1割にも満たない。要するに、私の人生のほとんどは政治とはかけ離れていたことになる。この際、藤本ゆうじをより知ってもらうために、この紙面を使って連載で私が歩んできた経歴を紹介しようと思う。

私は1957（昭和32）年2月16日、**浜松市**上島で生まれた。3歳くらいの時、**磐田市**で1年ほど過ごした後、**静岡市**東草深町に引っ越した。

幼稚園は**聖母幼稚園**、小学校は**城内小学校**（今の葵小学校）。3年生の2学期に**熱海第二小学校**に転校した。**沼津第一中学校**と**県立沼津東高**には熱海から通った。

高校3年の夏に**御殿場市**神山に引っ越し。1年の浪人生活を経て、**早稲田大学**法学部に入学。大学卒業後御殿場に戻り、父親が経営する「富士牧場公園」に6年半勤務した。

その後、会社を辞めてアメリカに留学。ミシガン州立大学コミュニケーション学科修士課程を修了して1989年帰国。

三和総合研究所（現在の「三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社」）で14年半ほど研究員として勤務。主に観光政策や街づくりなどの地域活性化政策の調査・研究を専門とした。

そして、2004年2月、会社を辞めて、7月の参議院議員に立候補し、今に至っている。

それでは来月は、浜松で生まれた52年前に戻ることにしよう。（来月の民主号外に続く）

### <藤本ゆうじの活動紹介>

■ **藤本ゆうじのホームページにアクセスしてください。** <http://www.fujimoto-yuji.org/>

\*ホームページでは、参議院議員藤本ゆうじの国会活動のほか、政治姿勢や考え方を知ることができます。また、毎月1回のラジオ番組「藤本ゆうじのかる〜くポリティックス」も聞くことができます。

■ **メールマガジン登録者大募集 !!**

\*ホームページの内容や毎月発行している民主号外など藤本祐司の活動をメールマガジンで配信しています。藤本祐司のホームページから簡単に登録できます。

■ **藤本ゆうじのラジオ番組「藤本ゆうじのかる〜くポリティックス」**

\*毎月、第4金曜日の18:30から30分間、FM・Hi 76.9MHz(エフエムハイ)で、政治をわかりやすく解説するほか、新聞やテレビでは知ることができない裏話をお話します。

次回の放送は**5月22日(金)の18:30**からです。

静岡事務所 〒422-8067 静岡市駿河区南町10-6 村上駅南ビル703

TEL: 054-280-7604 FAX: 054-285-7993 電子メール: [office-fujimoto@fujimoto-yuji.org](mailto:office-fujimoto@fujimoto-yuji.org)